

球を投げて、自分で空振りしていた風があつて、我ながらおかし
い。

四月七日

十二時建築学研究所の件で会合。十三時教室会議十五時半迄。
赤坂氏芸術学校教授就任あいさつ。十八時新大久保駅前近江屋に
て東大難波先生と久し振りに会う。十九時若松氏何故か出現。近
江屋会合も定着してしまつたようだ。難波和彦氏は相変わらずお
元氣のようだった。安心する。二〇時過修了。研究室に電話する
も誰も出ない。良い事だ。何しろ、私自身が居ないのだから、コ
レワ仕方の無い事ではある。只今、二〇時半京王線車中。世田谷
村に戻る途上。

四月八日

昨夕の難波和彦氏との会合で、氏は箱の住宅シリーズの名称を
変えると言明された。皆、色んな戦術をこらしているのだと痛感
したが、戦術の転換は戦略の骨格があつて、初めて生きるのは必
定であり、それに対する視界は私共々、霧の中に在り続けている
感がある。「批評と理論」 技術と歴史への研究会の転換も又、
その風がある。頑張る時代ではないのだろうか、この点だけは少
し気合いを入れる必要があると考えた。十一時研究室。石井君と
打合わせの予定。

十三時長野県上田、幸和建設来室。十四時半軽井沢〇氏来室。
アトリエ+住宅の相談。十八時過、渡辺、野本と大学周辺の桜の
花を観る。野本とは仲々会えなくなるので、それなりのいささか
大時代めいた「花」の話などしたのだが、全て空振り。自分で